

授業時間外学習の促進とアクティブラーニング

社会科専修・川瀬久美子

1. 授業の概要

本授業は、自然と共存する社会形成に必要な知識を学び、自然地理学的な環境理解を私達の社会・文化生活に関連づけて身に付けることを目的としている。授業の到達目標として、以下の3点を掲げている。

(1) 自然地理学的な基礎知識を身に付け、ある土地の自然環境がどのような現象の結果として成り立っているのか説明できる。

(2) 自然環境の地域性が土地固有の社会・文化形成にどのように結びついているのか、理解する。

(3) 近年の環境変化への人間の関与を理解し、自然と共存する社会形成の態度や方法について自分の考えをまとめることができる。

本授業は中学校社会、高等学校地理歴史科の教員免許を取得する上で必修授業であり、今年度は教員養成課程の学生と総合人間形成課程の学生38名が履修した。

授業の進め方は以下の通りである。

授業では内容整理のプリントA4サイズ1枚を事前に(前回に)配布する。プリントには用語の説明などに15前後の空欄[]があるので、受講生は時間外学習としてテキストを読んだり文献・ネットで調べて、プリントの空欄を埋めてくる。毎回の授業の冒頭では、教員に指名された受講生が空欄に入る語句を次々に回答する答え合わせをする。その上で、教員から内容整理の補足説明や関連する話題提供、資料映像の視聴や地図作業などを行った。

時間外学習として受講生がプリントの空欄埋めをしてきたか毎回確認することは難しい。本授業では、冒頭に5分ほど受講生同士が空欄の答えを確認しあうという時間を設けた。受講生同士の確認は強制なので、時間外学習を行ってこなかった学生は非常に気まずい思いをする。ランダムに回答者を指名していたが、ひとりの受講生が7回以上は回答していたと考えられる。

このような形で事前学習を設定した狙いは、

時間外学習で予習を科し、教員による内容の解説を最小限に抑えて、地形の成因や水資源のとらえ方を自ら考え受講生同士で学び合うというアクティブラーニングの時間を捻出するというにある。例年、本授業を履修する学生のうち、高校時代に地理を履修したことがない学生が少なからず存在する。本授業は自然地理学の基礎知識や事象の見方・考え方を学ぶものであり、これまではテキストと内容整理のプリントを併用して授業を進めてきた。適宜資料映像の視聴を行ったりして興味・関心を喚起する工夫を行ってきたが、事用語・現象の説明の繰り返しになりがちで、居眠りする学生もみられた。そこで、今年度の授業では知識の理解はテキストに基づく事前学習に委ね、様々な課題に個人とグループで取り組むアクティブラーニングを目指した。

アクティブラーニングとしては以下のような活動を行った。

- ・火山灰が地層の鍵層になることを理解するため、同じ複数回の火山灰を含む異なる4地点の遺跡の新旧を考える。
- ・斜面地形に関する知識の生活への応用として、松山市城北地区の地形図の読図とハザードマップの対比を行う。
- ・山地河川(四万十川)の蛇行の成因について考える。
- ・松山市石手川ダムの1994年渇水時や近年の貯水量変化のグラフを読み解き、水資源の過不足の判断基準について考える。

どの活動も個人で考えたあと、近隣の席の者同士で意見を交換し、そのあとそれぞれの意見を挙げてもらって全体で共有した。その上で、教員が考える上での着眼点や留意点を解説した。

2. アンケート結果

最終回に授業の進め方に関するアンケートを行った。回答者は受講生全員の38名である。回答は選択式のほか各設問に「改善案があれば記入して下さい」と自由記述欄を設け

た（選択肢の後に「」で記載）。

以下に、その結果を示す。

(1) 時間外学習について、あなたの意見に近いものを一つ選んで下さい。

- ・負担が多すぎた。 1名
- ・丁度良い量だった。 36名
- ・もっと課題が欲しい。 1名

「途中からプリントに対応するテキストのページが書いてありわかりやすかったので、すべて同じようにしてほしい」

(2) 教員によるテキストの内容説明について、あなたの意見に近いものを一つ選んで下さい。

- ・テキストの内容をもっと解説して欲しい。 11名
- ・解説は丁度良かった。 27名
- ・テキストの内容の解説は必要ない。 1名

「図の説明を増やしてほしい」

(3) 地図作業や事象を考える作業について、あなたの意見に近いものを一つ選んで下さい。

- ・負担が多すぎた。 1名
- ・丁度良い量だった。 27名
- ・もっとやってみたかった。 10名

「地図を使うことがいちばん楽しい」

(4) DVDなどの資料映像の視聴について、あなたの意見に近いものを一つ選んで下さい。

- ・映像資料を見る機会が多すぎた。 2名
- ・丁度良い量だった。 28名
- ・もっと映像資料が観たかった。 8名

「テキストの解説を要点をピックアップする」

(5) 答え合わせや意見交換の仕方について、あなたの意見に近いものを一つ選んで下さい。

- ・今期のように毎回近くの人と組むのが良い。 26名
- ・同じ課程・専修・コースで固定グループを組むのが良い。 3名
- ・課程・専修・コースを混ぜて固定グループを組むのが良い。 8名
- ・共同作業はしたくない。 1名

「近くの人と組むのがよい。固定グループだと班員に期待してやってこない人がでそうだから」

「混ぜて固定グループを組むのが良い。いろいろな人と意見をかわす方が望ましい」

「無理に固定しなくてもだいたい固定されている」

(5) 上記の問い以外の自由記述

「参考映像を見せてもらえたのでわかりやす

かった」

「映像資料や作業など、多角的な方法で自然地理を学習できて非常に面白かった」

「DVDが途切れ途切れの再生だったので、内容がつかめないことがあった」

「映像でも見ることで現象の理解につながる」

「教科書の途中で終わったので、最後までやりたい」

「フィールドワークが1日でもあればいい」

「フィールドワークが少ししたかった」

「専門的なものが多く理解できないこともあったが、新しいことを知る機会になった」

「地理を高校で勉強していない自分でも十分に理解できる授業だった」

「自ら考え友達と意見交換するのは大切だと感じた」

3. 総括

時間外学習として毎回テキストを10ページほど読んで予習することについて、ほとんどの学生が丁度良い量だったと回答している。キーワードを文章中から拾い読むだけではなく、テキスト掲載の図から読み取れることを記述する、という課題もあったが、今回の授業の課題の量は適切と判断できる。一方、教員によるテキストの内容説明については3分の1ほどの受講生がもっと解説してほしいと答えており、内容理解の点で教員のサポート不足がわかった。空欄埋めはほとんどが地形や現象の用語を記入するものだったため、空欄は埋められても地形のイメージや現象のメカニズムなど教科書から学び取れなかったこともあったと推察される。今後、内容の解説は増やしていくつもりだが、今期の授業では内容の解説をしてもプリントの空欄が埋まった後のせいか安心してしまい、解説に集中して耳を傾けない受講生がみられた。時間外学習から授業での学びへの発展的な展開の方法を検討する必要がある。

一方、地図作業や事象を考える作業などのアクティブラーニングや視聴覚教材の視聴については、ほとんどの学生が丁度良い、あるいはさらなる拡充を臨んでいる。自由記述からも、今回のアクティブラーニングに対して受講生が肯定的な評価をしていることが分かる。今後は受講生の評価だけでなく学習効果の面からもアクティブラーニングについて検証したい。